トラブルシューティング
Active IQ Unified Manager

NetApp
November 13, 2026

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/active-iq-unified-manager-918/storage-mgmt/concept_add_disk_space_to_um_database_directory.html on November 13, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

トラブルシューティング . . . 1
- Unified Managerデータベースディレクトリにディスク容量を追加する . . . 1
  - Active IQ Unified Manager のデータベースディレクトリへのディスク容量の追加 . . . 1
  - Active IQ Unified Manager の VMware 仮想マシンのデータディスクに空き容量を追加する . . . 1
  - Active IQ Unified Manager の Linux ホストのデータディレクトリにスペースを追加する . . . 2
  - Active IQ Unified Manager でMicrosoft Windowsサーバーの論理ドライブに空き容量を追加する . . . 4
- Active IQ Unified Manager でパフォーマンス統計の収集間隔を変更する . . . 4
- Active IQ Unified Manager がイベントおよびパフォーマンスデータを保持する期間を変更する . . . 5
- Active IQ Unified Manager で不明な認証エラーを解決する . . . 6
- Active IQ Unified Manager でユーザーが見つからないエラーを解決する . . . 6
- Active IQ Unified Manager で他の認証サービスを使用して LDAP を追加することによって発生した問題を解決する . . . 7
- Active IQ Unified Manager における NetApp Manageability SDK のログローテーション問題の解決 . . . 8

トラブルシューティング

Unified Managerデータベースディレクトリにディスク容量を追加する

Active IQ Unified Manager のデータベースディレクトリへのディスク容量の追加

ONTAPシステムから収集された健全性とパフォーマンスのデータは、すべてUnified Managerデータベース ディレクトリに格納されます。状況によっては、データベース ディレクトリのサイズの拡張が必要になることがあります。

たとえば、Unified Managerで多数のクラスタからデータを収集している場合、各クラスタに大量のノードがあると、データベース ディレクトリがいっぱいになることがあります。データベース ディレクトリの容量の95%に達すると警告イベントが生成され、95%に達すると重大イベントが生成されます。

ディレクトリの容量の95%に達すると、クラスタからデータが収集されなくなります。

データ ディレクトリの容量を追加する手順は、Unified ManagerをVMware ESXiサーバ、Red Hat Linuxサーバ、Microsoft Windowsサーバのいずれで実行しているかによって異なります。

Active IQ Unified Manager の VMware 仮想マシンのデータディスクに空き容量を追加する

Unified Managerデータベースのデータ ディスクのスペースを増やす必要がある場合は、インストール後にUnified Managerメンテナンス コンソールを使用して容量を追加できます。

開始する前に

- vSphere Clientへのアクセス権が必要です。
- 仮想マシンにスナップショットがローカルに格納されていない必要があります。
- メンテナンス ユーザのクレデンシャルが必要です。

仮想ディスクのサイズを拡張する前に仮想マシンをバックアップすることを推奨します。

手順

1. vSphereクライアントで、Unified Manager仮想マシンを選択し、データにディスク容量を追加します `disk 3`。詳細については、VMwareのドキュメントを参照してください。

   まれに、Unified Manager環境のデータ ディスクに「ハードディスク3」ではなく「ハードディスク2」が使用されていることがあります。その場合は、大きい方のディスクのスペースを増やしてください。データ ディスクのスペースは、常に他のディスクより大きくなります。

2. vSphere クライアントで、Unified Manager 仮想マシンを選択し、「コンソール」タブを選択します。
3. コンソール ウィンドウ内をクリックし、ユーザ名とパスワードを使用してメンテナンス コンソールにログインします。

4. *メインメニュー*で、*システム設定*オプションの番号を入力してください。
5. *システム構成メニュー*で、*データディスクサイズの増加*オプションの番号を入力します。

Active IQ Unified Manager の Linux ホストのデータディレクトリにスペースを追加する

Linux ホストを最初にセットアップして Unified Manager をインストールした際に、Unified Manager をサポートするための `/opt/netapp/data`ディレクトリに割り当てたディスク容量が不足していた場合は、インストール後に `/opt/netapp/data`ディレクトリのディスク容量を増やすことでディスク容量を追加できます。

開始する前に

Unified ManagerがインストールされているRed Hat Enterprise Linuxマシンへのrootユーザ アクセスが必要です。

データ ディレクトリのサイズを拡張する前にUnified Managerデータベースをバックアップすることを推奨します。

手順

1. ディスク スペースを追加するLinuxマシンにrootユーザとしてログインします。
2. Unified Manager サービスと関連する MySQL ソフトウェアを、以下の順序で停止します： `systemctl stop ocieau ocie mysqld`
3. 一時的なバックアップフォルダ（例： `/backup-data`）を作成します。現在の `/opt/netapp/data`ディレクトリ内のデータを格納するのに十分なディスク容量を確保してください。
4. 既存の `/opt/netapp/data`ディレクトリのコンテンツと権限構成を、バックアップデータディレクトリにコピーします：

   ```
   cp -arp /opt/netapp/data/* /backup-data
   ```

5. SE Linuxが有効になっている場合は、次の手順を実行します。
   a. 既存の `/opt/netapp/data`フォルダのフォルダの SE Linux タイプを取得します：

      ```
      se_type=`ls -Z /opt/netapp/data| awk '{print $4}'| awk -F: '{print $3}'| head -1
      ```

      次のような情報が返されます。

      ```
      echo $se_type
      mysqld_db_t
      ```

   a. `chcon` コマンドを実行して、バックアップディレクトリのSE Linuxタイプを設定します：

      ```
      chcon -R --type=mysqld_db_t /backup-data
      ```

6. `/opt/netapp/data`ディレクトリの内容を削除します：

a. `cd /opt/netapp/data`

b. `rm -rf *`

7. `/opt/netapp/data`ディレクトリのサイズを、LVMコマンドを使用するか、ディスクを追加することで、最低150 GBまで拡張します。

> ディスクから `/opt/netapp/data`を作成した場合は、 `/opt/netapp/data`をNFSまたはCIFS共有としてマウントしないでください。この場合、ディスク領域を拡張しようとすると、 `resize`や `extend`などの一部のLVMコマンドが期待どおりに動作しない可能性があるためです。

8. `/opt/netapp/data`ディレクトリの所有者（mysql）とグループ（root）が変更されていないことを確認します：

```
ls -ltr /opt/netapp/ | grep data
```

次のような情報が返されます。

```
drwxr-xr-x.  17 mysql root  4096 Aug 28 13:08 data
```

9. SE Linux が有効になっている場合は、 `/opt/netapp/data`ディレクトリのコンテキストがまだ mysqld_db_t に設定されていることを確認してください。

a. `touch /opt/netapp/data/abc`

b. `ls -Z /opt/netapp/data/abc`

次のような情報が返されます。

```
-rw-r--r--. root root unconfined_u:object_r:mysqld_db_t:s0
/opt/netapp/data/abc
```

10. ファイルを削除して `abc`、この不要なファイルが将来データベースエラーを引き起こさないようにします。

11. 内容を `backup-data`から展開した `/opt/netapp/data`ディレクトリにコピーします：

```
cp -arp /backup-data/* /opt/netapp/data/
```

12. SE Linuxが有効になっている場合は、次のコマンドを実行します。

```
chcon -R --type=mysqld_db_t /opt/netapp/data
```

13. MySQLサービスを開始します。

```
systemctl start mysqld
```

14. MySQLサービスが開始されたら、ocieサービスとocieauサービスを次の順序で開始します。

```
systemctl start ocie ocieau
```

15. すべてのサービスが起動したら、バックアップフォルダを削除します `/backup-data`：

```
rm -rf /backup-data
```

Active IQ Unified Manager でMicrosoft Windowsサーバーの論理ドライブに空き容量を追加する

Unified Managerデータベースのディスク スペースを増やす必要がある場合は、Unified Managerがインストールされている論理ドライブに容量を追加できます。

開始する前に

Windowsの管理者権限が必要です。

ディスク スペースを追加する前にUnified Managerデータベースをバックアップすることを推奨します。

手順

1. ディスク スペースを追加するWindowsサーバに管理者としてログインします。
2. スペースを追加する方法に応じて、該当する手順を実行します。

オプション	説明
物理サーバで、Unified Managerサーバがインストールされている論理ドライブに容量を追加する。	Microsoftの次のトピックの手順に従います。 "Extend a Basic Volume"
物理サーバで、ハード ディスク ドライブを追加する。	Microsoftの次のトピックの手順に従います。 "Adding Hard Disk Drives"
仮想マシンで、ディスク パーティションのサイズを拡張する。	VMwareの次のトピックの手順に従います。 "Increasing the size of a disk partition"

Active IQ Unified Manager でパフォーマンス統計の収集間隔を変更する

パフォーマンス統計のデフォルトの収集間隔は5分です。大規模なクラスタからの収集がデフォルトの時間内に完了しない場合は、この間隔を10分または15分に変更できます。この設定は、このUnified Managerインスタンスで監視しているすべてのクラスタからの統計の収集に適用されます。

開始する前に

Unified Managerサーバのメンテナンス コンソールへのログインが許可されているユーザIDとパスワードが必要です。

パフォーマンス統計情報の収集が時間内に完了しない問題は、バナーメッセージで示されています `Unable to consistently collect from cluster <cluster_name> or Data collection is taking`

too long on cluster <cluster_name>.

収集間隔の変更が必要になるのは、統計の収集に問題がある場合のみです。それ以外の場合は変更しないでください。

> この値をデフォルト設定の5分から変更すると、Unified Managerでレポートされるパフォーマンス イベントの数や頻度に影響する可能性があります。たとえば、システム定義のパフォーマンスしきい値ポリシーでは、ポリシーを超えた状態が30分続くとイベントがトリガーされます。これは、収集間隔が5分であれば、6回の収集で連続してポリシーの違反が検出された場合に相当します。一方、収集間隔が15分の場合は、2回の収集期間のみでポリシーの違反と判断されます。

統計データの現在の収集間隔は、[クラスタ セットアップ]ページの下部のメッセージに表示されます。

手順

1. SSHを使用して、Unified Managerホストにメンテナンス ユーザとしてログインします。

   Unified Managerメンテナンス コンソールのプロンプトが表示されます。

2. 「Performance Polling Interval Configuration」というラベルの付いたメニューオプションの番号を入力し、Enter キーを押してください。
3. プロンプトが表示されたら、メンテナンス ユーザのパスワードをもう一度入力します。
4. 設定する新しいポーリング間隔の値を入力し、Enterキーを押します。

外部データ プロバイダ（Graphiteなど）への接続を現在設定してある場合は、Unified Managerの収集間隔を10分または15分に変更したあと、データ プロバイダの送信間隔もUnified Managerの収集間隔以上に変更する必要があります。

Active IQ Unified Manager がイベントおよびパフォーマンス データを保持する期間を変更する

Unified Managerでは、デフォルトですべての監視対象クラスタのイベント データとパフォーマンス データが6カ月間格納されます。この期間を過ぎると、新しいデータ用の容量を確保するために古いデータが自動的に削除されます。このデフォルトの期間はほとんどの構成に対して有効ですが、多数のクラスタとノードを含む非常に大規模な構成では、Unified Managerが最適に動作するように保持期間を短縮しなければならない場合があります。

開始する前に

アプリケーション管理者のロールが必要です。

この2種類のデータの保持期間は[データ保持]ページで変更できます。これらの設定は、Unified Managerインスタンスで監視しているすべてのクラスタからのデータの保持に適用されます。

> Unified Managerはパフォーマンス統計を5分ごとに収集します。毎日、5分単位の統計が1時間単位のパフォーマンス統計に集計されます。5分ごとの履歴パフォーマンス データは30日間、1時間ごとの集計パフォーマンス データは6カ月間保持されます（デフォルト）。

保持期間を短くする必要があるのは、スペースが不足している場合またはバックアップやその他の処理の完了に時間がかかる場合のみです。保持期間を短くした場合の動作は次のとおりです。

- 古いパフォーマンス データは、午前0時を過ぎた時点でUnified Managerデータベースから削除されます。
- 古いイベント データはただちにUnified Managerデータベースから削除されます。
- 保持期間の前に発生したイベントはユーザ インターフェイスに表示できなくなります。
- 保持期間の前のデータについては、1時間単位のパフォーマンス統計が表示される場所には何も表示されません。
- イベントの保持期間がパフォーマンス データの保持期間より長い場合、古いパフォーマンス イベントに対応するデータが関連するグラフに表示されない可能性があることを通知するメッセージが、パフォーマンス スライダの警告の下に表示されます。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、**Policies** > **Data Retention** をクリックします。
2. 「データ保持」ページで、「イベント保持」または「パフォーマンスデータ保持」領域のスライダーツールを選択し、データを保持する月数に移動して、「保存」をクリックします。

Active IQ Unified Manager で不明な認証エラーを解決する

リモートユーザーまたはグループの追加、編集、削除、テストなど、認証関連の操作を実行しているときに、次のエラーメッセージが表示される場合があります： `Unknown authentication error.`

原因

この問題は、次のオプションの値が正しく設定されていない場合に発生する可能性があります。

- Active Directory認証サービスの管理者名
- OpenLDAP認証サービスのバインド識別名

対処方法

1. 左側のナビゲーションペインで、**[全般]** > **[リモート認証]** をクリックします。
2. 選択した認証サービスに基づいて、管理者名またはバインド識別名に適切な情報を入力してください。
3. *認証テスト*をクリックすると、指定した情報を使用して認証をテストできます。
4. *保存*をクリックします。

Active IQ Unified Manager でユーザーが見つからないエラーを解決する

リモートユーザーまたはグループの追加、編集、削除、テストなどの認証関連の操作を実行すると、次のエラーメッセージが表示されます： `User not found.`

原因

この問題は、ADサーバまたはLDAPサーバにユーザが存在する場合、およびベース識別名の値が正しく設定されていない場合に発生する可能性があります。

対処方法

1. 左側のナビゲーションペインで、**[全般]** > **[リモート認証]** をクリックします。
2. ベース識別名に適切な情報を入力します。
3. *保存*をクリックします。

Active IQ Unified Manager で他の認証サービスを使用して LDAP を追加することによって発生した問題を解決する

認証サービスに[その他]を選択した場合、[ユーザ オブジェクト クラス]と[グループ オブジェクト クラス]には前に選択したテンプレートの値が使用されます。LDAPサーバが同じ値を使用していない場合は、処理が失敗します。

原因

OpenLDAPでユーザが正しく設定されていません。

対処方法

この問題は、次のいずれかの対処方法によって手動で解決できます。

LDAPのユーザ オブジェクト クラスとグループ オブジェクト クラスがそれぞれuserとgroupである場合は、次の手順を実行します。

1. 左側のナビゲーションペインで、**General** > **Remote Authentication** をクリックします。
2. 「認証サービス」ドロップダウンメニューで「Active Directory」を選択し、次に「その他」を選択します。
3. テキスト フィールドに値を入力します。

LDAPのユーザ オブジェクト クラスとグループ オブジェクト クラスがそれぞれposixAccountとposixGroupである場合は、次の手順を実行します。

1. 左側のナビゲーションペインで、一般 > *リモート認証*をクリックします。
2. 「Authentication Service」ドロップダウンメニューで「OpenLDAP」を選択し、次に「Others」を選択します。
3. テキスト フィールドに値を入力します。

最初の 2 つの回避策が適用されない場合は、 `option-set` API を呼び出し、 `auth.ldap.userObjectClass` および `auth.ldap.groupObjectClass` オプションを正しい値に設定します。

Active IQ Unified Manager における NetApp Manageability SDK のログローテーション問題の解決

Windows オペレーティングシステム上の Unified Manager に ONTAPI API ベースのクラスタを追加すると、 `nmsdk.log`ファイルサイズが増加し、10 MB のサイズ制限を超えます。

原因

この問題は、ログローテーションが行われない場合に発生する可能性があります。

対処方法

1. Unified Managerを停止します。
2. WindowsにUnified Managerをインストールする場合は、Logrotateバージョン0.0.0.18をインストールしてください。詳細については、"NetApp Manageability SDK向けセキュリティ強化ガイドのテクニカルレポート"を参照してください。
3. Unified Managerを起動します。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。